

「最新のハイレゾ音源（デジタル音源）の聴き方について」

一般社団法人日本オーディオ協会 音のサロン委員会 活動報告

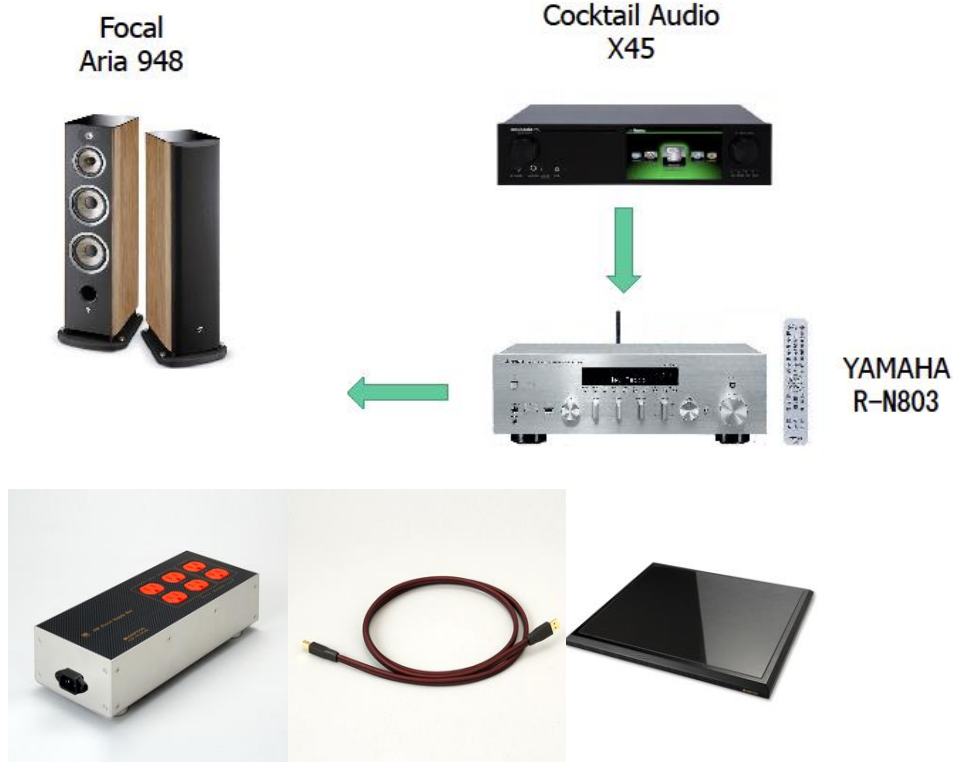
株式会社クリプトン オーディオ事業部

次長 庄子 清美

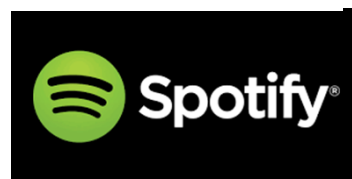
一般社団法人日本オーディオ協会（以下：日本オーディオ協会）は、真空管オーディオ協議会と、毎年各々が主催する展示会「音展」と「真空管オーディオ・フェア」で交換講演を行っており、今年も、10月8日(月・祝)に損保会館（東京・秋葉原）において、日本オーディオ協会音のサロン委員会企画の講演を行いました。「真空管オーディオ・フェア」に来場されるお客様が「最新のハイレゾ音源（デジタル音源）の聴き方について」のタイトルに興味を持たれるのか不安でしたが、約100名の聴講者で会場は満席の状態、1時間半行われた講演を最後まで聴いていただけました。

今回はラックスマン（スピーカーFocal製 Aria936）、ヤマハ（レシーバーアンプ R-N803）、トライオード（Cocktail Audio X45）、クリプトン（アクセサリ一群）と、超高級システムではなくエントリーモデルでありながらハイレゾ音源やデジタル音源が簡単に再生できるシステムを組みました。

機器構成



最初に最近のトレンドであるデジタル音源のストリーミング再生について説明をしました。圧縮方式の「amazon music」「Spotify」は説明と試聴、CDクオリティの「Deezer」は説明、ハイレゾ音源の「PRIMESEAT」は説明と 2.8MHz/1bit の DSD 音源の試聴を実施。



圧縮方式のメリットは楽曲数が多く、ジャンルに分かれたプレイリストがあり新しい音楽の発見ができること、デメリットは通常のステレオ装置で聴くには音質上で多少の不満が出てしまうことです。ハイレゾ音源のストリーミングのメリットは、音質が良い、最新の DSD11.2MHz も聴くことができる、自宅の D/A コンバータにあった音源を再生できること、デメリットはパケットの容量が大きく外出先で聴くのは不可能に近く、楽曲数もまだまだ少ないということです。



多くのオーディオファンが詰めかけた、日本オーディオ協会音のサロン委員会の講演

次は、ニューカマーである MQA-CD と通常 CD の比較試聴の実施をしました。今回使用した Cocktail Audio X45 は直接 MQA-CD をデコードすることが出来る機器ですので、ユニバーサルミュージックから出ている、サンプラーを使用しました。楽曲は「イパネマの娘」(スタン・ゲッツ&ジョアン・ジルベルト)と「酒とバラの日々」(オスカー・ピーターソン・トリオ)。ほとんどのお客様が「MQA-CDの方が良い音」という結果でした。

次に色々な方法でファイル再生を実施しました。

ヤマハの R-N803 の機能を使用しネットワーク再生を実施、X45 のハードディスクの中にあるデジタルハイレゾ音源 (96kHz/24bit FLAC ファイル) を LAN 経由し再生。次に Cocktail Audio X45 を使用し内蔵のハードディスクの中にあるファイル (96kHz/24bit FLAC ファイル) を再生。別の方法として、Cocktail Audio X45 の USB DAC の機能を利用し、PC のハードディスクの中にあるファイル (96kHz/24bit FLAC ファイル) を再生。ファイル再生もネットワーク再生、スタンドアロン再生、PC による再生などを確認いただき、お客様の環境で何が良い方法かをご提案しました。

最後に、ファイル再生に重要な USB ケーブルを変更することによる音の違いを確認。

PC 用の普通の USB ケーブル (1,000 円程度) とオーディオ用 USB ケーブル (40,000 円) の比較試聴、音源はカーペンターズ「This Masquerade」2.8MHz/1bit DSD ファイルを試聴、違いをお客様に確認していただきました。

お客様に挙手によるアンケートを取ったところ、ハイレゾ音源の再生を行っている人は 6 割以上、アナログレコードの再生を行っている人も 6 割以上と「真空管オーディオ・フェア」来場者は新しいものと従来のを併用している人が他の展示会よりも多いと思われました。「ファイル再生について[ネットワーク再生]と[PC再生]のどちらの方が音が良いか？」という質問には、「使用する機器や再生ソフトなど環境によって変わるので一概に言えない」と答えたように、デジタル音源の再生においてもいかに良い音で聴くかを工夫する余地は多々あるのではないのでしょうか。



講演終了後は聴講者から多くの質問が寄せられた

末筆ながら、機材提供及び説明要員としてご参加いただいたラックスマン(株)の小島様、(株)ヤマハミュージックジャパンの小林様、(株)トライオードの今様、及び会場準備いただいた真空管オーディオ協議会の朝倉様にお礼を申し上げます。

■執筆者プロフィール

庄子 清美 (しょうじ きよみ)

1981年4月 日本ビクター(株)入社 特機営業部配属

1990年4月 (株)クリプトン 入社

1999年2月 オーディオ事業設立 オーディオアクセサリーの販売

2005年6月 スピーカー事業を立ち上げ メイドインジャパンのスピーカーシステムを販売

2010年6月 小型デジタルオーディオシステムを販売

現在に至る。